

東方学院松江校 講義案内 (受講料以外に年会費 ¥3,000が必要)

1 『観無量寿経』を読む

【全12回】／開催方法：現地

さいとうしゅんけん
齊藤舜健

浄土宗総合研究所
主任研究員
浄土宗西方寺住職



受講料 会員料金：¥20,200 早割価格：¥19,200 (納入期限：4月29日)

【日 程】【全12回】 2回／月 第1・3金曜日
(5/6、5/20、6/3、6/17、7/1、7/15、10/7、10/21、11/4、
11/18、12/2、12/16)

【時 間】13:30～15:00

■受講に必要なもの

[テキスト] レジューメ配布

我が国では浄土系宗派の信者が全仏教徒の約半数を占め、それらの浄土系宗派の多くは法然(1133-1212)から始まる。法然がその教えの根拠としたのが『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』の三経典で、浄土三部経と呼ばれる。これらは中国の善導(613-681)や法然の理解を通すことで、わが国の浄土教・阿弥陀仏信仰の根元となった。信徒数の多さとあいまって、わが国の精神文化への影響は尽大なものといえよう。『観無量寿経』には中国において多くの註釈研究があり、特にわが国では善導『観経疏』の影響が非常に大きい。「偏に善導一師に依る」として善導への依拠を標榜する法然以後、その影響のもとでの浄土系諸宗派の宗義学の立場からの研究の積み重ねがあり、内容の理解はもちろん、語句や構文の理解に到るまで、宗義学的な裏づけ、後付の解釈が与えられている。その影響は極めて大きく、それらの理解を離れての読解は困難な点があるので、それらにも目配しながら、経典本文を読み進めて行きたい。

令和4年度は3年度からの継続で、『観無量寿経』第九真身観から読み始める。すでに読了した『観無量寿経』第八像想観までと『無量寿経』の所説を前提とするので、初回にはそれらについて昨年度までの内容を振り返りつつ解説する。

【参考書】

- ①【現代語訳】浄土三部経 著者：浄土宗総合研究所 出版社：浄土宗出版 出版年：2011
- ②浄土三部経(現代語版) 浄土真宗聖典 著者：浄土真宗本願寺派総合研究所 出版社：本願寺出版社 出版年：1996
- ③浄土三部経 著者：中村 元、紀野 一義、早島 鏡正 出版社：岩波書店 出版年：1990